〈幼稚園教育〉

喜んで登園できる幼児の育成

―園歌とかかわる環境や遊びの工夫を通して―

糸満市立高嶺幼稚園教頭　大　城　幸　子

内容要約

園歌を通して，まわりの環境に触れさせ，幼稚園での遊びが楽しいと感じることができ，喜んで登園できる幼児の育成を願い研究を進めてきた。

園歌とかかわる環境や遊びの工夫をしたことで，仲間と共に元気よく遊びを広げることができるようになった。花や虫を命ある仲間として大切にしょうとする心が育ち，明るい笑顔で，幼稚園での生活を楽しみにして，喜んで登園してくる幼児の姿が見られるようになった。

【キーワード】　喜び　園歌　遊び　環境構成　表現

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 1

Ⅱ　研究視点 …… 1

Ⅲ　研究の全体構想図 …… 2

Ⅳ　研究内容 …… 3
　1　喜んで登園できる幼児とは …… 3
　2　楽しい幼稚園とは …… 3
　3　幼児理解の方法 …… 3
　4　園歌と関連する遊びと環境の工夫により
　　幼児に期待できる育つ力 …… 4

Ⅴ　保育実践 …… 5
　1　園歌とかかわる遊びの工夫 …… 5
　2　実践事例 …… 6
　3　検証保育 …… 7

Ⅵ　研究の成果と今後の課題 …… 10

〈幼稚園教育〉

喜んで登園できる幼児の育成

―園歌とかかわる環境や遊びの工夫を通して―

糸満市立高嶺幼稚園教頭　大　城　幸　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

少子化や核家族化が進み，家庭の中で大人を相手に遊ぶことが増え，同年齢の友達と遊ぶ機会が減少している。その結果，新しい環境になじみにくかったり，友達とのコミュニケーションが取り難かったりする幼児が多く見られるようになってきた。このような社会環境の変化を背景として，幼稚園教育に対する期待が高まってきた。その中でも，幼児期においては，環境に積極的にかかわろうとする力や日常生活の中で言葉への興味や関心を育て，喜んで話したり，聞いたりする態度や人への愛情や信頼感，自立と協同の態度，創造性や豊かな感性を育てることが必要である。

幼児は，幼稚園に入園することを心待ちにしており，期待で胸を膨らませて登園してくる。しかしながら，毎年，登園を嫌がり泣いたり，家から出ようとしない幼児などがいる。その原因については，「朝起きれない」「上手に作品がつくれない」「降園後，学童保育へ行くのが不安である。」「先生や友達に話すことができない」等が予想される。背景には，夜遅くまで起きてテレビを見ているとか，作る作品が他の友達と比較されるから，先生や友達に話しかけたけれども聞いてくれなかったとか，家庭における生活習慣の欠如やコミュニケーション不足，幼児の発達の個人差などが幼稚園への不適応をひき起こしていると考えられる。本来幼稚園は，楽しく過ごせる場所で幼児にとって安心して自己発揮のできる場所でなければならない。

望ましい幼児の姿として，喜んで登園し，充実した楽しい園生活を過ごす中で，「自分のめあてをもって遊ぶことができる幼児」「人やもの，環境に興味，関心を持ち，感動体験の中で疑問や発見のできる感性豊かな幼児」「友達とかかわりながら，遊びを工夫し，発展させ創造のできる幼児」と捉えている。

幼児が喜んで登園し，教師や友達に心を開き，園生活を楽しく過ごしてほしい事は親や教師の願いである。その為に，教師は幼児に寄り添い共感し，幼児のよき理解者となり，幼児との信頼関係を育み仲間の一員として一緒に遊びを作り出す姿勢を大切にしていきたい。

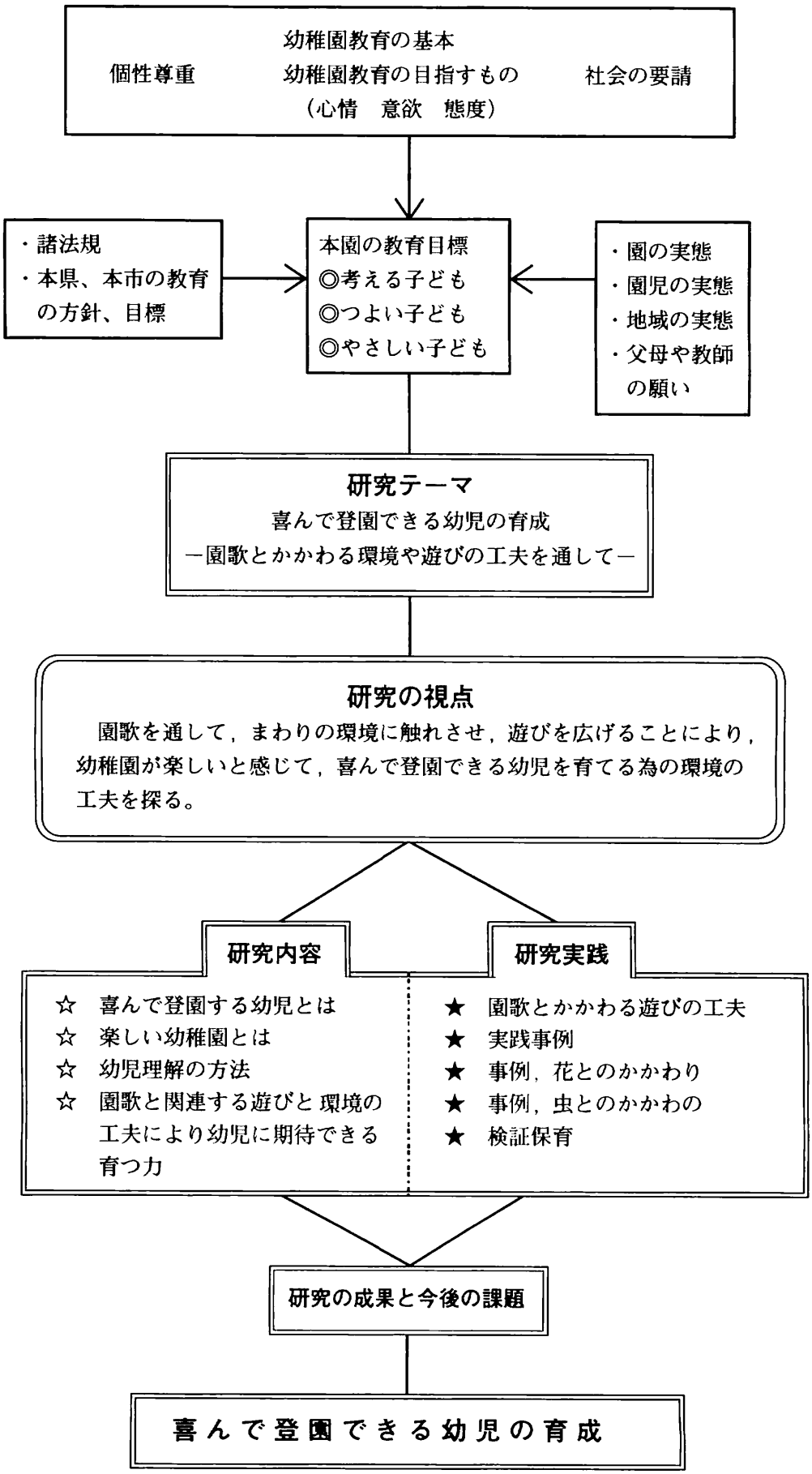
ところで本園の園歌は，草花への興味，関心や生命の尊さ，やさしい心を育む内容で，園歌から発展して，幼児がいろいろな遊びを工夫していけるような親しみやすい歌になっている。

そこで，遊びに興味や関心，意欲を持たせ，生命誕生の喜びを知らせ，地域の環境に心を動かし，好奇心，探求心への行動や態度を育む内容の園歌に着目して，園歌とかかわる遊びや環境を工夫する事で，幼稚園は楽しいと感じることができ，喜んで登園できる幼児の育成を願い本テーマを設定した。

Ⅱ　研究の視点

園歌を通して，まわりの環境に触れさせ，遊びを広げることにより，幼稚園が楽しいと感じて，喜んで登園できる幼児を育てる為の環境の工夫を探る。

Ⅲ　研究の全体構想図


幼稚園教育の基本
個性尊重
幼稚園教育の目指すもの
（心情　意欲　態度）
社会の要請
・諸法規
・本県、本市の教育の方針、目標
本園の教育目標
◎考える子ども
◎つよい子ども
◎やさしい子ども
・園の実態
・園児の実態
・地域の実態
・父母や教師の願い
研究テーマ
喜んで登園できる幼児の育成
－園歌とかかわる環境や遊びの工夫を通して－
研究の視点
園歌を通して，まわりの環境に触れさせ，遊びを広げることにより，幼稚園が楽しいと感じて，喜んで登園できる幼児を育てる為の環境の工夫を探る。
研究内容
☆　喜んで登園する幼児とは
☆　楽しい幼稚園とは
☆　幼児理解の方法
☆　園歌と関連する遊びと環境の工夫により幼児に期待できる育つ力
研究実践
★　園歌とかかわる遊びの工夫
★　実践事例
★　事例，花とのかかわり
★　事例，虫とのかかわの
★　検証保育
研究の成果と今後の課題
喜んで登園できる幼児の育成

Ⅳ　研究内容

1　喜んで登園できる幼児とは

様々な事情のある家族形態であっても，家族の豊かな愛情に支えられ，心やさしく，明るい笑顔で元気よく，幼稚園での遊びを楽しみに喜んで登園してくる幼児。そして，今日の遊びを，明日の遊びに、ワクワク，ウキウキ，ドキドキと連なげていける幼児。

ワクワクとは，教師や友達との信頼関係に支えられ，自分の居場所があり，好きなこと，やりたいこと得意なことをさらにやってみようとする気持ち。

ウキウキとは，身近な人に認められ，誉められ，励まされることで嬉しくなり，更にやってみようとする気持ち。

ドキドキとは，友達関係が深まり，自分達でルールをつくり遊びを展開していき，新たなことに挑戦していこうとする気持ち。

幼稚園では，大好きな先生が，友達が，うさぎが，かめが，にわとりが，小鳥が，お花が自分を待っているという気持ちで登園していく幼児。

2　楽しい幼稚園とは

友達と支え合って生活する楽しさを味わいながら，主体性や社会的態度を身に付けていく所である。そこには，遊びがあり，友達がいて，見守る先生や親，地域の人々がいる所。

3　幼児理解の方法

(1)　1年間の発達を見通した幼児の発達の姿。

1期…4月～7月 ○初めての集団生活の幼児や保育所経験の幼児など個人差が著しい。 ○友達とかかわって遊んでいるように見えるが，はっきりした連ながりがなく，一人遊びが多い。 ○教師や友達との一緒に遊ぶ楽しさがわかり始める。
2期…9月～12月 ○試したり，挑戦したりして，いろいろな遊びに，進んで取り組む姿が見られる。
3期…1月～3月 ○幼児が主体的に生活を展開する姿が見られる。

(2)　理解の視点

幼児とかかわりながら，幼児の動きに心をくだき，実態に即してありのままに捉える努力をする。

①　気持ち…内面理解をする。
「元気がないけど何かいやなことでもあったのかな」「とても嬉しそうなのは何かいいことがあったのかな」幼児の様子を見ながら気持ちを理解してかかわっていく。

②　遊び……幼児の遊びを継続して見る。
幼児の興味や関心の変化を見る。
遊んでいる友達関係を見る。

③　生活…　一人一人の生活を「あるがままに受容」する。
生活の見通しを捉える。自我の発達を捉える。

4　園歌と関連する遊びと環境の工夫により幼児に期待できる育つ力

園歌の意義は，高嶺幼稚園の幼稚園生であるという意識を持たせる。

園歌の歌詞を下記の様，分類すると，楽しい遊び，花や虫とのかかわり，遊びの場となる地域の環境　が表れ幼児に期待できる育つ力が見えてきた。。

園　歌　♪ ♪糸満市立高嶺幼稚園の園歌	園歌と関連する遊び	環境の工夫	幼児に期待できる育つ力
1番の歌詞 お花とお花と　ジャンケンポン かたいつぼみは　グー 二枚の花びら　チョキ みんな開いて　パー 菊のお花の　ジャンケンポン 僕ら明るい 高嶺っ子　高嶺っ子	・お花のジャンケン遊び。	・季節の花ひまわりや朝顔の種蒔きを，部屋の近くに花園を作る。	☆草花への興味関心。 ☆遊びの工夫。
2番の歌詞 せみの赤ちゃん　生まれたよ かたい背中がしーっ 濡れた羽だよ　キラリ 飛行機みたいに　宙返り ミンミンぜみの　赤ちゃんだ 僕ら元気な 高嶺っ子　高嶺っ子	・せみとり。	・園庭のがじゅまるの木に，ロープやタイヤをつるす。	☆生命の尊さ。 ☆好奇心。
3番の歌詞 昔のお話し　聞いた 青いグッピー　スィー せみも聞いてる　ジー 黙って　おききよ　しーっ 嘉手志川のお話しよ みんなやさしい 高嶺っ子　高嶺っ子	・嘉手志川での水遊び。 ・グッピーとり。	・嘉手志川へ遊びに連れて行く。 ・嘉手志川の話を聞く	☆やさしい心。 ☆創造性。 ☆豊かな感性。

喜んで登園できる幼児

Ⅴ　保育実践

1　園歌とかかわる遊びの工夫

・園歌の曲を教師が意図的に毎日１回は流すようにする。

・父母の集まりでも親子で園歌を歌うようにする。

□＝遊びの工夫

☆　＝幼児のつぶやき

★　＝変容

〈ジャンケン遊び〉

1番の歌詞を通しての遊びの工夫

・菊のお花のジャンケンポンは，園庭に咲いている花をペープサートを作って遊ぶ。

・帰りの会でジャンケンして帰る。たまには足で教師と幼児，幼児と幼児でジャンケンの工夫をして帰す。

・２人から始まったジャンケン遊びが，グループでの花いちもんめの遊びへ広がる。

・朝顔の開いた花，つぼみの花を押し花にする。

☆幼児のつぶやき・ひまわりの花を見て＝「幼稚園をひまわりの花で，いっぱいにしょう」

・あさがおの花を見て＝「お花のグゥ，チョキ、パァぁーだ！」

・遊びのなかで＝「グゥはがまんのグゥね」

・遊びのなかで＝「チョキはカニのハサミのチョキね」

・遊びのなかで＝「パァーはひまわりのお花のように明るくね，ニコニコね」

★変容　・花への興味，関心　・遊びを考える　・観察力　・仲間意識

2番の歌詞を通しての遊びの工夫

・かじゅまるの木に，つるされたロープやタイヤを揺らして飛行機に見たてて遊ぶ。

・かじゅまるの木のロープをつかまり蝉の表現をして遊んでいる。

☆幼児のつぶやき＝「蝉のターザンの誕生で～す」

★変容　・ゆれに気づく　・注意力　・集中力　・創造性　・満足感

3番の歌詞を通しての遊びの工夫

・親子で，または友達の親子も一緒になって昔の話をして遊ぶ。

・父母の手づくり紙芝居を子供の発達に合わせて読みの工夫をして読み聞かせをする。

・親子の会話の中で

「お父さんが小さい時，嘉手志川には大きいうなぎもいたよ」「川の端々にはカニがいたよ」

「カニを取る時は，草の先を丸めて，その丸い所でさっとカニを取ったんだよ」

☆幼児のつぶやき

・紙芝居「嘉手志川」を読んでいる時…「昔，戦争があったんだねぇー」

・紙芝居「嘉手志川」を読んだ後…「今度は，海の話してぇーほらあの話，亀の話，浦島太郎の話

★変容　・地域を知る　・創造力　・知的好奇心　・話しを聞く態度

2　実践事例

(1)　花とのかかわり　《K子とひまわりの花とのかかわり》

登園の様子

K子は，お母さんから離れられなく，泣いて登園する日が続いている。
「お母さん，お母さん」とお母さんを求めて泣いている。

教師とのかかわり

教師とK子のかかわり
K子＝泣いている。
教師＝K子さん，どうして泣いているの？
K子＝・・・
教師＝これから，毎日ひまわりの種に水をやらないといけないのだが，ひまわりの種は，きっとK子さんを，毎日待っているでしょうね。水がほしいと。
K子＝・・・・

K子の変容

K子に，教師の気持ちが伝わったのか泣かずに登園して，ひまわりの種に，毎日水やりを頑張る。
K子の水やりのおかげで，ひまわりの花は満開。K子は笑顔で喜んで登園してくるようになった。
★K子の育ち
・責任感・喜び
・花への興味

《考察》

入園後，２カ月泣いて登園してくるK子，お母さんから離れられないK子は，幼稚園は好きだけど幼稚園が終えたら学童保育へ行かなければならない，その学童保育へいくことが嫌で朝の登園時に，泣いてお母さんから離れられない原因があったようだ。Y教師とのひまわりの花の種まきをきっかけに，毎日ひまわりの世話をする中で，自分が休むとひまわりの花は水をやる人がいない。このことから学童の先生や幼稚園の先生もひまわりも自分のことを待っているんだと気づいたようである。それからは喜んで登園してくる笑顔がみられるようになった。

(2)　虫とのかかわり　《T男とトンボとのかかわり》

M男がトンボをつかまえたぁーと元気な声で部屋に入ってきた。「先生！トンボー」と見せようとすると同時にK男の手からトンボが離れて天井に止まった。「あっ！あっ！と周りの子も一斉に天井を見る。くやしそうなM男や他の幼児達。この時，T男が，教師の前に園児用の椅子を置いた。園児用の椅子ではトンボはとれない。そこへ教師が竹竿をもってきた。幼児達は，息をのんでトンボが逃げないようにと口に手をあてて，シーと静かにの合図をお互いで顔を見合わせてやっている。教師は祈った。「とんぼさん，お願い！竿の先に止まってください，歌や絵本の中にあるように竹竿の先に止まって」と願いどおりにトンボは竿の先に止まってくれた。幼児達は一斉に「先生すごい天才」と拍手する。トンボは羽の形がとてもきれいだった。皆で話し合い，トンボを家族の所へ帰すことにして外へ放した。

《考察》

大きくなったら虫博士になると言う子が学級に１０人いる。その中の一人であるK男は普段から園庭で虫を見つけては図鑑を広げては虫調べ，その繰り返しで遊んでいる。「トンボ」とのかかわりでT男の変容を見ることができた。T男は，なんでも上手にできるが，発する言葉で相手に嫌な思いをさせることがあり。そのことで，親と担任は連携を取り合っている。そんなT男がさっと椅子を用意する態度，トンボを放そうとM男が提案した時に素直に聞入れることのできたT男。T男や他の幼児達の生命を大切に思う態度に感動させられた。M男が捕まえてきたトンボが逃げたきっかけから，皆で協力して捕まえることができたトンボを，また放すことにした皆のやさしい心をいっぱい誉めた。トンボの話を幼児達は静かに聞いている。話は広がり，家族の話，S子の病気の犬を病院に連れて行った話等どんどん膨らんでいった。話を聞く態度を育てるとは，豊かな感性を育てるとは，教師がありのままに純粋な気持ちで幼児に話す，教師は，幼児のありのままの様子を受て，認めて，誉めて，励まして接することである。そのことが幼児の喜びを保障することになり，幼児一人一人が喜んで登園することにつながった。

★T男の育ち＝・他者との協調性　・考える　・やさしさ　・聞く態度

3　検証保育

(1)　活動名　〈園歌を通した，表現遊び〉

(2)　活動設定の理由

①　幼児観

園歌を歌いながら遊んでいる様子を見ると。「朝顔の花がパァして咲いているよ」「我慢のグゥね」「ハサミはカニのチョキだよ」とジャンケン遊びを楽しんでいる。折紙で蝉や飛行機を作って飛ばしっこをして遊んでいる幼児。嘉手志川からグッピーやおたまじゃくしを取ってきて，遊ぶ幼児。園庭で汗びっしょりかいて虫探しの幼児。嘉手志川での水遊びは，幼児の楽しい遊びの場になっている。今日の遊びは，昨日からの続きで，明日へ連なげて遊べるようになっている。

②　教材観

園歌を，教材化することにより遊びの楽しさを味わわせ，生命を尊重する態度や創造力を育む。園歌を通した，表現遊びの中で友達関係を深めることができる。

花いちもんのジャンケン遊びは，リズミカルな動きで，友達の名前を呼んだり，名前を指名される喜びや，期待感をもったり，友達とのかかわりを深める楽しい遊びである。

昔話しを聞く中で，話し手との絆を深めたり，知的な関心や豊かな感性が育まれる。人の話しを聞く態度が養われる。

③　保育観

園歌を教材にして，まわりの環境や地域の見直しに努め，幼児の発想や素朴な表現を大切に受けとめ，一人一人の幼児が，喜んで登園することができるよう楽しい幼稚園生活の展開に向けた保育を進めていきたい。

(3)　活動のねらい…・園歌とその表現遊びを通して，友達と遊ぶ楽しさを味わう。

(4)　活動内容……・体を動かして表現遊びをする。
・友達と一緒に，歌で声かけたり，友達の名前を呼んだりして，花いちもんめ遊びをする。
・高嶺幼稚園の園歌を歌う。

(5)　保育の視点……・環境を整えて，友達と一緒に表現遊びを楽しむ。

(6)　保育展開

時　間	幼　児　の　活　動	教　師　の　援　助
9:45	・自分でつくった花，虫のかんむりをして，教師の前にすわる。 幼児の作品 紙芝居 展示 園 廊下　ひ　と　ま　せんかわ　みぼにり 庭 ・・・・ 教師 ひまわり，かに，とんぼ，せみのグループ名は，話し合って皆で決めた。自分がなりたい花や虫のグループも自分で決めた。 カセット 花のペープサートの準備 園歌の歌詞 黒板	・父母の手づくり紙芝居，嘉手志川を展示する。 ・これから，高嶺幼稚園の歌のなかにある明るい子，元気な子，やさしい子の高嶺っ子で，せみさん，ひまわりさん，カニさん，とんぼさんになって，花いちもんめをしたり，昔話しを聞いたりして遊ぶことを話す。 ○花のペープサートで，園歌１番を歌う ・つぼみの花１本……グゥ ・２枚の花びら１本……チョキ

	1　表現遊び ①　せみの表現 ★せみの誕生と飛ぶ表現 南山城址を指さし せみはあの山で お母さん　お母さんって 鳴いているんだよ せみの表現の幼児は,男児5名 ☆幼児のつぶやき ②　花の表現 ★ひまわりの表現 ★つぼみの表現 ★開いた花の表現 幼児の動き 大きい花がパァーで，小さい花はグゥ。別の表現の子が花への水やりだと言ってでてきて花のまわりをまわり水やりの表現をする	・開いた花２本……パァー ・表現活動に入る前に，各グループの位置の誘導をする。 ・園で誕生した８羽のひよこの話しに触れる。園歌の２番を歌う。 ・せみの誕生を幼児と共に数える １ ２ ３ ４ ５ ６ ７ 蝉の声♪みんみんみん　ジージージー ・皆の花への水やりのおかげで朝顔やひまわりの花がきれいに咲いていること触れる。 ひまわりの花の表現幼児は,女児8
	③　カニの表現 幼児の動き 両手でハサミの表現をして左右に手を振り，部屋を歩く，棚を砂山に見立てて カニの部屋に入っていく。	・その子なりの表現を誉めてあげる。 カニの表現幼児は,男児9名
	④　とんぼの表現 とんぼグループは，とんぼの目玉のくるくる目玉をフープで表現する。 「やご！」で～す。 やごも登場する。 幼児の声	・トンボのメガネのフープでの表現の時は２回に分けて表現させる。 準備 フラフープ ８本 トンボのメガネを表現する幼児は,女児7名,男児1名
	2　花いちもんめ遊び ①　せみととんぼの勝負 「やった！－」 喜びの幼児の声。 ②　かにとひまわりの勝負	・花いちもんめの遊びの説明をする。 花いちもんめの遊びは，一番の盛り上がり。
	3　・昔の話しを聞こう ♪昔、昔のお話です♪　音楽つきの 静かに見ている　テープによる昔話 4　・全員で園歌を歌う	・園歌の３番を歌う。 ・嘉手志川の話しに少し触れてから，「浦島たろう」の紙芝居を見せる。 ・元気な歌声を誉める。今日の遊びが，明日の遊びに意欲的な態度につなげるよう期待感を持たせる。
10:45		
評価	①遊びの楽しさを味わうことができたか。 ②園歌を共に歌って，満足感を味わったか	

(7) 考　察

○　幼児の声から教師の読取り。

H男が「お花もご飯食べるよねぇー」「ひまわりは，土の中らパワーもらうんだようねぇ」から表現遊びが始まった。ひまわりの花の散水を終えた後のH男である。

種から育てたひまわりの花が，自分より高いので，散水をしているうちに大きなひまわりが土からパワーをもらっていることに気づいたようだ。

蝉の赤ちゃん誕生の表現の時，W男が「ここには，蝉はいないよ，蝉はあの山にいるよ，生れてお母さん，お母さんって鳴いているよ」と，窓越しに見える南山城址を指さして言った。

最近園で，ひよこが8羽生れて，お母さんにわとりと一緒にいる8羽のひよこのことと重なったのかな。

○　表現遊びでの教師の読取り。

花の表現では，Y男が飛び出て，花に水をやる表現が出た。Y男は毎朝花への水やりが日課である。表現する花を命あるものとしてうけとめ花に水をやる，生かして花を咲かそうとのY男の表現を見て，思いやりとは自分がやって嬉しかったことを，他の人にも喜んでもらえるようにできることで，Y男の行動から，Y男に思いやりの心が育っていることがわかった。

カニの表現では，「カニの部屋は砂山だよ」と，教材棚を空けて，カニの部屋を前日に環境の構成をした。今日は，カニの部屋に見立てた砂山に楽しそうにカニの表現をして向かっていった。

トンボの表現では，トンボはクルクル目玉だからクルクル目玉にしょうと言うことで，フープでのトンボの目玉の表現になった。女の子の中にただ一人男の子がいたが，一人でもいいトンボの表現をしたいというM男は，虫博士になりたいグループのメンバーで「やごでぇ～す」とやごの表現がでた。M男は，2，3日前にやごを園にもってきていた。

○　K子の変容

5月迄，泣いてお母さんからなかなか離れなかったK子も，花いちもんめで男の子と戦って勝った。勝って満足している笑顔のK子が見られた。園歌も楽しそうに歌っていた。

○　T男の変容

やさしい言葉使いができるようにと，担任や親が願っていたT男の落ち着きのある主体的な行動も見られる場面があった。花いちもんめの相手との戦いで頑張る為に上履きを脱いだT男は，きちんと上履きを揃える態度がみられた。

○　表現遊びで頭にかぶっているかんむりの花や虫のグループは，前に決めた。園歌に出てくる花や虫の名前をから出た。1番の菊の花，2番の蝉，3番のグッピー。1番は菊の花よりひまわりがいいと，ひまわりの花に決まり。2番の蝉は，決まったが一番なりてが少なかった。とんぼのグループをつくろうと幼児達から出た。トンボは一番人気があった。それは幼児の中に，まだ蝉の鳴き声は、聞こえてこないがトンボは園庭にあらわれるからであろう。グッピーのグループは誕生しなくカニが出たのは，グッピーは好きだけどカニに食べられるからなりてがいなかった。

自分で選んだ花や虫のかんむりをかぶっての遊びなので，一人一人が安心し自分なりの表現を自信をもってできたと思う。グループ別に表現する様々な動きや言動には幼児に学ばされるものがあった。

ジャンケン遊びから始まる花いちもんめの遊びは，全員が楽しく遊ぶことができた。

感性豊かな幼児の声を，しっかり聞いて受けとめているつもりであったが，幼児の発達を促すための応答的な援助が足りないところもあったことを反省している。

幼児達が，表現遊びを楽しく，園歌を共に歌って満足感を味わうことができたのは，園歌にかかわる環境に幼児が主体的にかかわってきたからである。

〈花いちもんめの遊びの場面〉

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　成　果

(1)　園歌を通した研究により，幼児や職員に笑顔で登園する姿がみられた。

(2)　本園の園歌には，多くの豊かな保育教材が見えることに気づいた。

(3)　園歌を教材化して，保育に活かせることがわかった。

(4)　園歌を通した，環境や遊びの工夫により，幼児の明るいあいさつ，遊びの工夫，観察力，創造性，やさしい態度，話を静かに聞く態度，等の育ちの変容がみられるようになった。

(5)　一学期は，一年間共に過ごす幼児と教師との信頼関係を築く大事な学期である。この時期の研究では，真新しい純粋な幼児の姿をみつめることにより，幼児理解と環境の見直しができた。

(6)　理論研究の中で，幼稚園教育の重要性を学ぶことができた。

(7)　幼児一人一人の声に，心を向けた幼児理解や援助については検証保育で学ぶことができた。

2　今後の課題

(1)　二学期には，幼児が主体的に，園歌を通したリズム創作への展開が見られるよう研究を深めていきたい。

(2)　園歌にかかわる環境や遊びを通して，幼児が心豊かに生きる力の根になるような「心の教育」に連なげる教材研究を続けたい。

(3)　一人一人の幼児が，喜んで登園できる幼稚園であるよう，園の職員間，父母や地域との温かい人間関係を大切にした園運営に努めていきたい。

〈主な参考文献〉

文部省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	1999年
森上史郎他５名編	『保育の基本」全６巻』	フレーベル館	1999年
岸井　勇雄	『幼稚園教育要領用語解説』	保育資料社	1998年